



# Cross Talk

**中岡 佑輔**

なかおか ゆうすけ 1980年生。前住所は兵庫県神戸市。大手飲料メーカー、皮革販売会社に勤務。営業販売やレザークラフトのワークショップ講師などに従事。前職で培った営業力と、レザークラフトを通じたものづくりの経験を活かし、地域資源を活用した各種イベントの企画や、南部地域の魅力発信などに取り組む。

**平塚 海渡**

ひらつか かいと 1986年生。前住所は東京都八王子市。大手不動産会社勤務を経て渡仏。現地の建築会社で設計業務を経験。不動産や建築の知識、英語やフランス語などの語学力、特技・趣味(サーフィンや自転車等)を活かし、南部地域の魅力発信や日本文化に興味をもつ海外の学生のインターシップの誘致などに取り組む。

**田中 愛生**

たなか あいき 1989年生。前住所は東京都あきる野市。料理人として日本やフランスの日本料理店などで経験を積み、フランス語やスペイン語の通訳や翻訳にも携わる。前職で培った食の知識、語学力などの特技や趣味を活かし、南部地域の食や文化の発信などの魅力発信、空き家等を利活用し、人を呼び込む仕掛け作りなどに取り組む。



的にも時間的にもどこまでできるかというところで挑戦しています。

——南部エリアの印象・魅力って何だと思いますか？

**田中** 食材が豊富で、しかも安い。東京と比べて、野菜の価格も全然違うし、店頭にも並ぶ魚の量も違う。魚は本当に美味しいです。近所の方がよく野菜をくださるのですが、初めていただいた時は驚きました。東京ではなかなかないことなので。私は料理が好きで、全て使って食べべきものだから、こういうコミュニケーションは嬉しいですね。ケーキなんかを焼いてお返しをしたりしています。あとは海の雰囲気が好き。自分は泳げないんですけどね(笑)。

**平塚** 趣味がサーフィンなので海は本当に魅力的。南部の海は波が穏やかだからサーフィンよりもSUPやウインドサーフィンかな。でも、こんなに綺麗な海なのに人がいない(笑)。自分のもののようにできる点では嬉しいんですが、少し寂しいです。

——実際に地域に入ってみて気づいたことはありますか？

**中岡** 山口に住みやすいところですが課題もあります。先ほどの空き家の件もそのひとつ。住みたい人が移住しやすいうシステムができれば、それから私は害獣対策として革を使って何かできないかと考えています。それがこの地域の魅力のひとつになれば最高です。

**平塚** 一年配の方に会うのも楽しいし、知識も吸収できるのですが、若い人にも出会ってみたいです。でも、やっぱり少ない。山口に限らず日本の地方は、「面白くない」、「仕事がない」から若者が流出する。人が出て行くから街が寂れて…という負のスパイラルに陥っている。そこを何とか人が集まる流れを作って、正のスパイラルに変えていく必要があります。

**田中** お酒好きの自分にとっては、お酒が飲めるお店が少ないのは寂しい(笑)。でも南部では、新しくなった新山口駅を中心に街を発展させ



今回座談会をおこなったのは、山口市阿知須の「いぐらの館」。玄関前でみなさんと。

MAP D-9

ていこうという動きもあるし、自分たちもみんなも楽しめるものが見つけたらいいなと思っています。

——移住は難しい？大変？

**田中** 私は、山口に来る前は海外に住んでいたから、それと比べれば、言葉も通じるし、通貨も同じだし、不便とか大変だとは思わなかったですね。ガラッと気分を変えて、「ここでは何が楽しめるんだろう」と考えられれば、移住は素敵なものになると思います。今までは全く違う生活ができるから、また新しい人生が開ける、そう思える人にはぜひおすすめしたいですね。



## 座談会 沖永優子 × 地域おこし協力隊

# 山口市南部の魅力

山口市南部で活躍する「地域おこし協力隊」。2019年3月に着任した3人に南部の魅力、実際に活動してみでの印象などを語っていただきました。

聞き手: 沖永優子 場所: 阿知須「いぐらの館」

——地域おこし協力隊になった理由・経緯などを教えてください。

**田中** 山口に来る前は、フランスに留学していたんです。その時に同じく留学していた平塚さんと出会うんです。語学学校で。彼と仲良くなると、今後どうするかとなった時に、日本に帰るのもいいねという話になって。まず足がかりをつくるために何かないかなと考えていた時に、地域おこし協力隊というのを見つけたんです。これなら新しい地に移り住んでも、ゼロから地盤を作っていけると思っています。

**平塚** 留学中に日本の地方の過疎問題をテーマに論文を書くことになって、色々調べると、地域おこし協力隊という制度を発見したんです。それで、帰国したらまずはこの協力隊というシステムを使ってネットワークを作りたいと考えてました。

**中岡** 私は移住を真剣に考え始めたのは一昨年の夏。ずっと(出身の)神戸で暮らしていただろうと思っていたんですが、前職の後輩が和歌山に移住したのを見て、ちょっと羨ましさを感じて。そんな時妻からの後押しもあって、何の予備知識もなしに移住フェアに可能性を探りに行っただけです。そこで、山口市の地域おこし協力隊募集を見つけて、応募して、それで今ここに(笑)。

——日頃はこういった活動を？

**中岡** 平日は地域おこし協力隊の業務、週末は自分の生業をしています。任期が終了した後も困らないように2つの顔を意識しています。地

域おこし協力隊としては、全員共通のミッションが、「コミュニティ形成業務」。最近では「ひなもん」の製作体験をさせてもらい、その方々の交流が今でもあるし、自分も教える側として、レザークラフトのワークショップを定期開催しています。自分の得意分野を企画・提案できるのは面白いんです。今は、ツール・ド・ヤマグチやひなもん祭り等既存のイベントのお手伝いをさせていただいている状況ですが、今後は、自分もそういったイベントを企画していきたいと考えています。

**平塚** 南部の魅力発信や空き家の利活用など、基本的に田中さんと一緒に活動しています。海外にいたおかげで異文化に触れる大切さを感じたので、外国の学生をインターシップのような形で連れて来たいと考えたのですが、宿泊できる場所がなかなか見つからない…。空き家自体はたくさんあるのですが、所有者とのやりとりや片付けなど今は課題山積み状態です。もう少しネットワークや信頼関係があれば…。予算、

**Key Word** | 地域おこし協力隊

都市地域等の住民を一定期間「地域おこし協力隊」として受け入れ、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし活動に取り組んでもらいながら、地域への定住・定着を図る制度。総務省が支援するもので、山口市では平成25年度からこの制度を活用して、地域力の維持・強化を図る取り組みをおこなっている。